

平成28年度箕面市決算の概要

<>の数値は、前年度との比較

決算の全体像（普通会計）

◆普通会計決算額

社会資本整備総合交付金を活用した事業の増加や、将来に備えて基金の積替えを行ったことなどにより、歳入・歳出総額ともに前年度から増加。

歳入総額	536億11百万円	<+ 82億1百万円、+ 18.1% >
歳出総額	501億71百万円	<+ 81億40百万円、+ 19.4% >
実質収支	22億21百万円	<+ 1億5百万円、+ 5.0% >

◆主な歳入の状況

- ・市税収入 235億2百万円 <+87百万円、+0.4%>
 - 個人市民税 +1百万円、法人市民税 ▲48百万円、固定資産税 +86百万円
 - 都市計画税 +14百万円、市たばこ税 ▲31百万円、開発事業等緑化負担税 +20百万円
- ・各種交付金 25億63百万円 <▲4億69百万円、▲15.5%>
 - 地方消費税交付金 ▲2億9百万円、株式等譲渡所得割交付金 ▲1億44百万円
- ・国・府支出金 126億14百万円 <+27億41百万円、+27.8%>
 - 社会資本整備総合交付金(国) +15億92百万円、年金生活者等臨時福祉給付金(国) +3億39百万円
 - 北大阪急行線延伸整備事業費補助金(府) +3億円、施設型給付費負担金(国・府) +1億22百万円
- ・普通交付税 7億42百万円 <▲77百万円、▲9.4%>
- ・地方債 35億41百万円 <+9億27百万円、+35.5%>
 - 公共用地先行取得 +7億77百万円、彩都小中一貫校グラウンド用地取得 +6億51百万円
 - 臨時財政対策債 ▲3億45百万円

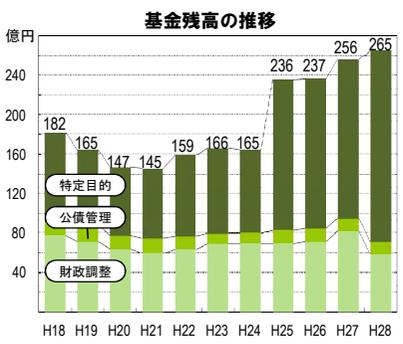
◆主な歳出の状況

- ・義務的経費 229億45百万円 <+5億34百万円、+2.4%>
 - 人件費(給料、退職手当など) ▲1億11百万円
 - 公債費(聖苑・第一市民体育館整備事業債の返済終了など) ▲2百万円
 - 扶助費(教育・保育等給付費、生活保護費など) +6億48百万円
- ・普通建設事業費 77億94百万円 <+47億20百万円、+153.5%>
 - (仮称)箕面船場駅前地区まちづくり拠点施設整備 +14億76百万円
 - 彩都の丘小中一貫校増築等 +13億37百万円、箕面駅前駐車場・駐輪場の整備完了 ▲6億72百万円
- ・その他
 - 積立金(財政調整基金から特定目的基金への積替えなど) +25億6百万円
 - 貸付金(公共用地取得、農業公社支援など) +3億90百万円

収支バランスの状況（普通会計）

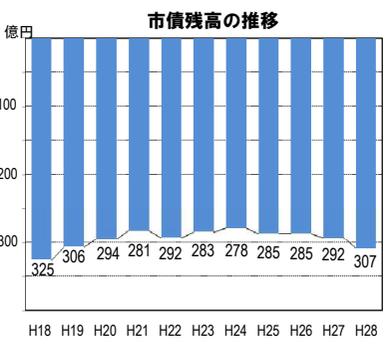
◆基金残高 265億22百万円<+9億16百万円、+3.6%>

新駅周辺まちづくりや小中学校空調整備など、将来への投資に基金を活用した一方で、北大阪急行南北線延伸整備基金などに積立てを行った結果、基金残高は前年度比で9億16百万円の増となった。また、今後の財政需要に備え、財政調整基金から都市施設整備基金、文化施設整備基金へ積替えを行った。



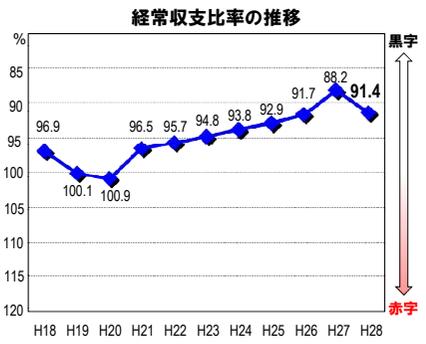
◆市債残高 307億33百万円 <+15億37百万円、+5.3%>

20億4百万円の返済を行った一方で、彩都小中一貫校グラウンド用地取得や北大阪急行線の延伸、公共用地先行取得などに係る施設整備事業債等を25億70百万円、臨時財政対策債を9億71百万円、合わせて35億41百万円の新規発行を行ったことから、市債残高は15億37百万円の増となった。



◆経常収支比率 91.4% <+3.2ポイント>

扶助費や補助費の増などにより、経常経費充当一般財源は微増となった。また、地方消費税交付金や株式等譲渡所得割交付金など各種交付金や臨時財政対策債が大幅に減少したことから経常一般財源が減少し、昨年度から3.2ポイントの増加となった。



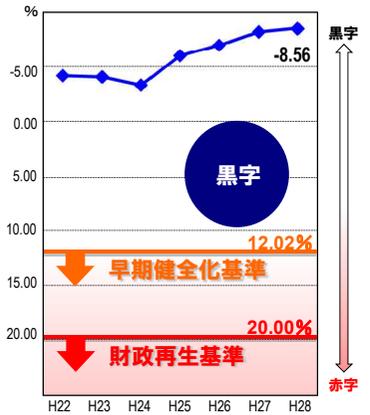
健全化判断比率等の状況

いずれも数値が小さいほど健全。早期健全化基準は、平成28年度決算における数値。早期健全化基準を超えた団体は、破たん一步手前の状況で、早期に財政の立て直しが必要。(イエローカード) 財政再生基準を超えた団体は、破たん状態とみなされ、国の関与のもと厳しい財政の再建が必要。(レッドカード) このほか、公営企業の経営状況を示す資金不足比率については、病院事業、水道事業、公共下水道事業、競艇事業のいずれの会計も資金不足はない。

◆実質赤字比率

一般会計等の赤字の大きさと、財政運営の深刻度を示す。

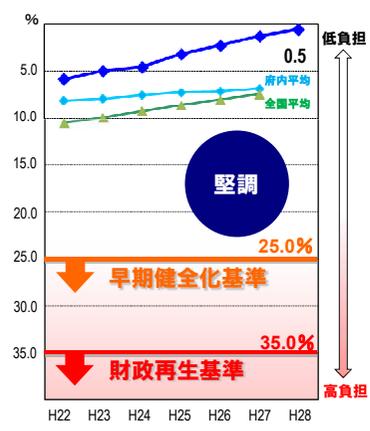
新築家屋の増による固定資産税の増や、退職手当の減に伴う人件費の減などによる一般会計の収支改善により、0.3ポイント改善



◆実質公債費比率

一般会計等の市債の返済額などの大きさと、資金繰りの危険度を示す。

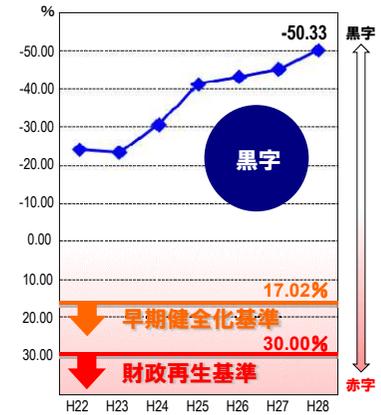
標準税収入額等の増による標準財政規模の増などにより、0.7ポイント改善



◆連結実質赤字比率

一般会計の他、すべての特別会計、公営企業会計の赤字や黒字を合算した赤字の大きさと、財政運営の深刻度を示す。

一般会計の収支改善、特別会計国民健康保険事業費の累積赤字縮減などにより、4.9ポイント改善



◆将来負担比率

一般会計等の市債や将来支払可能性のある負担などの残高の大きさと、将来の財政を圧迫する可能性が高いかどうかを示す。

(仮称)箕面船場駅前地区まちづくり拠点施設整備事業に係る債務負担行為に基づく契約の履行に伴い、23.5ポイント増えたものの、低負担を維持

